

山田火砂子監督作品

- ★ 厚生労働省社会保障審議会推薦
- ★ 日本PTA全国協議会特薦
- ★ 年少者映画審議会推薦
- ★ 東京都知事推奨
- ★ 日本映画ペンクラブ推薦
- ★ カトリック中央協議会・広報推薦

不長少年更生の父、と呼ばれた留岡幸助の生涯を完全映画化

捨てるべき人間はいない――



# 大地の詩

うた

— 留岡幸助物語 —

主演 村上 弘明

平成 23 年度  
**児童福祉文化賞**  
 山田火砂子受賞



工藤 夕貴

市川 笑也 隆 大介 笹木 優子 秋野 太作 アーサー・ホーランド 村田 雄浩 さとう宗幸 石倉 三郎

小倉 一郎 和泉 ちぬ 佐藤 正宏 堀内 正美 宮川一朗太 コント山口君と竹田君 本間健太郎 井口 成人 真砂 皓太 磯村みどり

中条きよし

製作総指揮：山田火砂子 脚本：長坂秀佳 池田太郎 山田火砂子 プロデューサー：井上真紀子 国枝秀美 敷原信子 萩原浩司 音楽：石川鷹彦  
 撮影監督：長田勇市 録音：沼田和夫 美術：小林和美 編集：岩谷和行 メイク：金森 恵 衣裳：佐藤真澄 助監督：石山和彦 ラインプロデューサー：桜井陽一  
 主題歌：「大地の詩」(歌：朱花) 企画協力：留岡幸助映画応援団

特別協力：社会福祉法人 北海道家庭学校 社会福祉法人 東京家庭学校

製作：現代ぷろだくしょん <http://www.gendaipro.com/tomeoka> 助成：文化芸術振興費補助金



## 留岡 幸助

とめおかこうすけ  
1864~1934

### 留岡幸助語録

「学校に行ったからといって英雄豪傑ができるわけではありません。君子になるか、盗賊になるかは家庭の陶冶（とうや=教育）によるのであります。それなのに今の家庭は下宿屋にすぎません」

「教えんとするものは、自ら教えられなければならぬ」

「教育上一番大切なのは家庭である。次に大切なのは学校と社会である。人の子を教育する最も適当な場所は、地球上どこか？ オックスフォードか、ハーバードか、エールか、ベルリンか？ 人間を良くする基本は家庭にある。」

「教養のある慈母が子どもの教育者としては一番。無教養なる慈母でもよい。」

「我が国の教育は情味がたらぬ、情味がたらぬということは、色々な悪結果を生む。学校さえやれば子供は良くなると思っている親。学校が二分で、家庭が八分なのだ。」

岡山県高梁市で生まれ育った留岡は、或る日寺子屋の帰りに武士の子供にいじめられている町人の子を助けようと相手に噛みつく。怒った武士の家では、幸助の父親から買っていた米・みその他すべて買い取ることを停止する。その上、幸助の父親を木刀で打ち、出入禁止にする。その事を知る。それでも父は商人だから謝りに行こうという。幸助は、武士が威張る土農工商制度に子供ながらも義憤を感じた。

その後、青年時代に“人間は皆平等である”とのキリスト教の教えを聞いて、明治時代の同志社に入学、卒業後は霊南坂等の牧師を経て“私は開拓に行くのではない、心の開拓に行く”と北海道に渡る。そこで監獄の教誨師となり、囚人へのあまりにも酷い仕打ちに義憤を感じ、監獄改良を叫ぶ。その頃、空知集治監では、重罪犯二千人を収容し、強制労働など過酷な刑罰を受ける囚人達。幸助は、なんとか囚徒を更生させ、監獄を改革しようと、三年に渡って囚徒の過去を調査する。そして、犯罪の芽は幼少期に発することを知り、幼い頃の家庭教育の大切さに気づく。また、幼き日の友人が、犯罪者になっていたことも少年感化に従事する遠因となる。

幸助は教誨師を辞めると、米国に渡り二年をかけて欧米の監獄事情を学ぶ。そして帰国後、少年感化を実現すべく、北巢鴨の一角に「家庭学校」を作り、広く感化を要する子弟を教育、少年感化事業の先駆者となる。後に巢鴨の地が都会的になると、ルソーの著書「子供を育てるには大自然の中が一番」という説に感銘を受け、北海道・遠軽の地に家庭学校を作る。その教育は、21世紀となった今もお受け継がれ、その地は留岡という地名になって現在に至っている。

現在の日本、あまりにも子殺し・親殺し・家庭崩壊が日常茶飯事に心を痛め、この映画を作ろうと考えました。留岡の教育の中に、“幼き日に慈母に育てられた子供は不良にならない、夫婦仲良く子供を愛せよ、家庭が一番”この事をもう一度考え直す時代ではないかと…この映画を作りました。

あの膨大な内容を映画1本に凝縮なさるのはさぞさぞ難しかったことと存じます。山田火砂子さんはすごい女性であると感服いたしました。ぜひ、大勢の人に観てもらいたいと願います。

『ぐりとぐら』の作家 中川李枝子

厚生労働省社会保障審議会推薦 日本PTA全国協議会特薦 年少者映画審議会推薦 東京都知事推奨 日本ペンクラブ推薦 カトリック中央協議会・広報推薦

平成23年度 児童福祉文化賞 山田火砂子監督受賞 助成：文化芸術振興費補助金

製作：現代ぶろだくしょん 2011年 / 日本 / 116分・ビスタビジョン / カラー / DTSステレオ <http://www.gendaipro.com/tomeoka>

後援：岡山県・北海道・財団法人矯正協会・更生保護法人日本更生保護協会・社団法人全国保護司連盟・更生保護法人全国更生保護法人連盟・日本更生保護女性連盟・日本BBS連盟・財団法人全国教誨師連盟・全国児童自立支援施設協議会・社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国児童養護施設協議会・財団法人全国里親会・全日本中学校長会

**4月8日(日) 岡山県天神山文化プラザ・ホール** ①10:30 ②14:00

(岡山市北区天神町8-54 TEL086-226-5005)

※駐車場に限りがございますのでなるべく公共の交通機関をご利用になってご来場下さい。

**4月14日(土)~15日(日) くらしき健康福祉プラザ・プラザホール** ①10:30 ②14:00

(倉敷市笹沖180 TEL086-434-9850)

### 入場料

一般(大学生以上)：前売券 1,100円 / 当日 1,500円

小・中・高・障がい者：当日 1,000円(当日券のみ)

後援：社会福祉法人岡山県社会福祉協議会・社会福祉法人岡山市社会福祉協議会・社会福祉法人倉敷市社会福祉協議会・倉敷市民生委員児童委員協議会・岡山宣教の集い・山陽新聞社・朝日新聞岡山総局・毎日新聞岡山支局・読売新聞大阪本社

お問い合わせ：映画「大地の詩」上映実行委員会 / 岡山(086)223-0904(中国共同映画内)

／倉敷(086)422-2490(倉敷聖約キリスト教会内)